

## 薬学研究科薬学専攻博士課程シラバス（抜粋）

※全シラバスは以下URLに掲載

<https://class.admin.tus.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp>

2017/06/13(火)14:42

科目名称	薬物治療学特論		
科目名称(英語)	Advanced Pharmacotherapeutics (Applied)		
授業名称	薬物治療学特論		
教員名	岡 淳一郎、樋上 賀一、山下 親正、磯濱 洋一郎、西川 元也		
開講年度学期	2017年度 後期		
曜日時限	金曜3限		
開講学科	薬学研究科 薬学専攻 博士課程		
単位	2.0	学年	1~4年
科目区分	専門特論科目	履修形態	選択
授業の概要・目的・到達目標	<p>[概要]</p> <p>薬学部で学習した知識を基盤として発展させ、各種疾患に対する薬物治療について、病態生理・解剖学・薬物動態・製剤化(DDS)・作用機序・薬物治療等の各観点から、担当教員の研究成果に基づく専門性を生かして、より具体的に内容を理解できるように説明を行う。</p> <p>本特論により、修了後に治療薬と関連した医療現場やその他の職場で必要となる知識を身につけることが可能である。</p> <p>[目的]</p> <p>薬物治療に関する分子レベルから臨床までの現状と問題点を把握し、今後開発されるべき新しい治療薬についての独自の考察ができるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>新しい薬物治療についての知識を得た上で、自ら考えることができるようになることを目標とする。</p>		
履修上の注意	本特論をきっかけにして、興味をもったテーマについて、さらに深く自ら学び考えを深めることで、上記の目標を達成すること。		
準備学習・復習	薬学部で受講した関連講義の内容を復習しておくこと。各回の内容についてよく復習し、配付資料をもとにさらに深く自ら学び考えを深めること。		
成績評価方法	授業中の討論への参加状況(20%程度)とレポート(80%程度)で総合的に評価する。		
成績評価基準	<p>S: 到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている</p> <p>A: 到達目標を十分に達成している</p> <p>B: 到達目標を達成している</p> <p>C: 到達目標を最低限達成している</p> <p>D: 到達目標を達成していない</p>		
教科書	なし。		
参考書	随時、紹介する。		
	<p>第1回 老化研究の現状【樋上 賀一】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老化研究の現状を説明できる。</li> <li>・寿命制御に関連する遺伝子を説明できる。</li> </ul> <p>第2回 カロリー制限研究の現状【樋上 賀一】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カロリー制限による抗老化・寿命延長作用について説明できる。</li> <li>・カロリー制限の分子メカニズムに関して説明できる。</li> <li>・カロリー制限模倣約に関して説明できる。</li> </ul> <p>第3回 健康寿命の延伸について【樋上 賀一】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肥満症、糖尿病やメタボリックシンドロームなどの病態を説明できる。</li> <li>・糖尿病やメタボリックシンドロームの発症における脂肪組織の役割を説明できる。</li> <li>・代謝制御を介する肥満症、糖尿病やメタボリックシンドロームに対する治療法や健康寿命延伸法に関して説明できる。</li> </ul> <p>第4回 臨床薬物動態【西川 元也】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物動態に関わる代表的なパラメータを理解する。</li> <li>・臨床での薬効(あるいは毒性)発現時に見られる薬物動態的課題について理解できる。</li> </ul> <p>(時間外学習の指示)学部3年生の薬剤学(後半の生物薬剤学分野)と薬物動態学を事前に復習して</p>		

授業計画	<p>おくこと。</p> <p>第5回 医薬品の開発と薬物動態【西川 元也】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品開発段階における薬物動態の重要性を理解できる。</li> <li>・新薬の薬物代謝予測と毒性予測について理解できる。</li> </ul> <p>第6回 バイオ医薬の薬物動態【西川 元也】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオ医薬開発における薬物動態の重要性を理解できる。</li> </ul> <p>第7回 DDSの開発と評価(1)【山下 親正】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DDSのメカニズムとその評価方法について説明できる。</li> </ul> <p>第8回 DDSの開発と評価(2)【山下 親正】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DDSのメカニズムとその評価方法について説明できる。</li> </ul> <p>第9回 DDSの開発と評価(3)【山下 親正】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DDSのメカニズムとその評価方法について説明できる。</li> </ul> <p>第10回 中枢疾患治療薬の現状と展望(1)【岡 淳一郎】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情動障害の治療薬について説明できる。</li> </ul> <p>(時間外学習の指示)学部3年生の薬理学1を事前に復習しておくこと。</p> <p>第11回 中枢疾患治療薬の現状と展望(2)【岡 淳一郎】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の治療薬について説明できる。</li> </ul> <p>第12回 中枢疾患治療薬の現状と展望(3)【岡 淳一郎】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病性中枢障害について説明できる。</li> </ul> <p>第13回 呼吸器疾患治療薬の薬理作用(1)【磯濱 洋一郎】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎮咳および去痰を目的に用いられる各種薬物の薬理作用と呼吸器疾患に対する使用について説明できる。</li> </ul> <p>第14回 呼吸器疾患治療薬の薬理作用(2)【磯濱 洋一郎】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気管支喘息等の炎症性呼吸器疾患の治療に用いられる薬物の薬理作用と使用について説明できる。</li> </ul> <p>第15回 伝統医薬品を用いた薬物治療【磯濱 洋一郎】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢方薬等の伝統医薬品の作用と創薬標的分子について理解できる。</li> </ul> <p>* 各回の授業は基本的に講義形式で行う。</p>
教職課程	なし。
備考	なし。
993AK07	